



TITLE:

表紙・目次 (泌尿器科紀要 第26巻
第10号) 編集後記・購読要項・投稿
内規

AUTHOR(S):

CITATION:

表紙・目次 (泌尿器科紀要 第26巻第10号) 編集後記・購読要項・投稿内
規. 泌尿器科紀要 1980, 26(10): 1334-1334

ISSUE DATE:

1980-10

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/122739>

RIGHT:

泌 尿 器 科 紀 要

第 26 巻 第 10 号

1980年10月



- ヒト正常腎に由来する培養上皮様細胞の性質について.....松田 稔・ほか...1201
- 腎細胞癌における腎静脈および下大静脈の Computed Tomography
による検討.....増田富士男・ほか...1213
- 腎のいわゆる「場所取り病変 (Space occupying lesion)」における
腎シンチグラム断層の診断的価値.....伊藤 坦・ほか...1221
- 実験的腎動脈塞栓術における脊損併発例の検討.....酒井 晃・中村武夫...1229
- 睪丸腫瘍59例の臨床的検討.....吉田 和彦・ほか...1237
- 東海大学病院泌尿器科における尿中分離細菌について
第1報: 1976~1978年の分離細菌とディスク感受性について.....岡田 敬司・ほか...1245
- RIA 法による前立腺性酸フォスファターゼの診断的価値.....藤井 光正・ほか...1263
- 病的腎に腎外傷を合併した小児2症例.....前川 幹雄・ほか...1271
- 長期透析症例の腎性骨異常栄養: たびたび病的自然骨析をきたした2症例.....細川 進一・ほか...1275
- 女子傍尿道腫瘍の2例.....森山 正敏・ほか...1281
- 会陰部に開口する副尿道の1例—逆Y字型重複—.....荒川 創一・ほか...1291
- Polymyxin B 局所投与による術後尿路感染予防および治療効果の検討平賀 聖悟・ほか...1297
- 男子尿道部感染症に対する Cefoperazone の使用経験
第1報: 1日1回 2g 投与時の臨床効果榊 知果夫・中野 博...1305
- 男子尿道部感染症に対する Cefoperazone の使用経験
第2報: 1日1回 1g 投与時の臨床効果中野 博・榊 知果夫...1313
- 腎性高血圧に対する Alprenolol (Apollobal®) の使用経験.....安本 亮二・ほか...1319
- 前立腺癌に対する Estracyt® の臨床効果.....長船 匡男・ほか...1325

Characterization of Epithelial Monolayer Cells Derived from Human

- Normal Renal Cortex Tissue.....M. Matsuda et al....1201
- Computed Tomographic Evaluation of the Renal Vein and
Inferior Vena Cava in Renal Cell CarcinomaF. Masuda et al....1213
- Diagnostic Validity of Renal Scintitography in Renal Space
Occupying LesionH. Ito et al....1221
- A Study of Spinal Cord Injuries Complicated by
Experimental Renal Artery Embolization in Dogs.....A. Sakai and T. Nakamura...1229
- A Clinical Survey on 59 Cases of Testicular TumorK. Yoshida et al....1237
- Statistic Studies on Bacteria Isolated from Urinary Tract Infections
and Its Disk Sensitivity in Recent 3 years (1976~1978)K. Okada et al....1245
- The Evaluation of Radioimmunoassay for Prostatic Acid Phosphatase.....M. Fujii et al....1263
- Two Cases of Renal Trauma on Affected Kidney in Children.....M. Maegawa et al....1271
- Renal Osteodystrophy under the Long-Term Hemodialysis:
Two Cases of Spontaneous Pathologic Fracture of Bone.....S. Hosokawa et al....1275
- Paraurethral Tumor in Females: Report of Two CasesM. Moriyama et al....1281
- A Case of Inverse Y Ureteral DuplicationS. Arakawa et al....1291
- Clinical Study on Effect of Local Administration of Polymyxin B
Solution for Postoperative Urinary Tract InfectionS. Hiraga et al....1297
- Treatment by Cefoperazone for Infections of Male Urethral Region
1. Clinical Efficacy of Daily Dose of Two GramsC. Masu and H. Nakano...1305
- Treatment by Cefoperazone for Infections of Male Urethral Region
2. Clinical Efficacy of Daily Dose of One GramH. Nakano and C. Masu...1313
- Effect of Alprenolol in Patients with Renal Hypertension.....R. Yasumoto et al....1319
- The Clinical Effects of Estracyt® on Prostatic Cancer.....M. Osafune et al....1325

Editor: Prof. Osamu YOSHIDA, M.D.

Department of Urology, Faculty of Medicine

Kyoto University, Kyoto Japan 606

京都大学医学部泌尿器科学教室

泌尿紀要

Acta Urol. Jap.

禁 帯 出

到着後1ヶ月間

編 集 後 記

医学教育について(3)

関連病院の院長と医学部教授とが話し合う会で、かつてはもっと医師を派遣してくれとの要望が多かったが、最近では派遣された若手医師の「質」がよく話される。卒直な意見が交換され、意義のある討論がなされることが多い。しかしなかには教育はすべて大学がやれ、そうして完成された医師を派遣せよといわんばかりのことを述べる人もいる。

筆者は過日、この会で次のような発言をした。「医学教育は大学だけでやるものではない。若い医師にこういう点が足りない、こうあるべきだというまに、自分の病院でしっかりした理念のもとに、合理的なカリキュラムを作成して教育を行っているか考えてもらいたい。もちろん立派な教育計画で、見事な卒後教育を行っている病院もあるが、まだまだ充分とはいえない。

ついでにいうならば、第一線の病院に若手医師が出ると、概して論文を書かなくなる。症例報告1つでも、若いうちに論文を書くことがいかに大切かは述べるまでもない。部長をはじめベテランの医師は、いくら忙しいとはいっても若手医師に論文を書くよう指導するぐらいの時間はあると思う。

いずれにしても病院あげて医学教育にとりくむという意欲をもってほしい……」 (O. Y.)

購 読 要 項

1. 発行は原則として毎月とし、年間購読者を会員とします。
2. 会員は年間予約購読料と 5,000 円(送料とも)前納していただきます。
分売は原則としていたしません。払込みは振替に限ります。口座番号 京都4772番 泌尿器科紀要編集部宛。外国は送料とも年間25ドルです。
3. 入会は氏名(フリガナ)、住所(雑誌郵送先)、勤務先をご記入のうえ編集部あて、はがきにてお申し込みください。

投 稿 内 規 (1969年1月改正)

1. 原稿の種類は綜説、原著、臨床報告、その他、和文または英文とします。
2. 原稿の長さは制限しませんが簡潔に願います。
3. 和文原稿は 400 字詰原稿用紙横書きとし、当用漢字、平かな、現代かなづかいを用い、片かなには「」を要しません。表、図の説明はなるべく英文にしてください。文中欧語学術用語は固有名詞、記号以外はキャピタルではじめる必要はありません。必ず英文抄録をつけ、これには英文の表題、所属機関名、ローマ字著者名も記入しておいてください。
英文抄録は詳細なものを歓迎します。ご希望の場合は当編集部にて作成しますので、抄録用の和文原稿を別につけてください。翻訳の実費は申し受けず。
4. 英文原稿の場合はタイプでダブルスペース打とし、和文表題と和文抄録をつけてください。
5. 数字はすべて算用数字を使用し、数量の単位は m, cm, mm, cc, ml, kg, g, mg, °C, μ, %, PH などを使用し、は不要です。また BUN IVP NPN PSP TUR なども、を要しません。
6. 表、図、写真などはすべて別紙とし、説明は和文、英文を問わず Table 1, Fig. 2 等としてください。
7. 文献の書式は次のようにしてください。
A 雑誌の場合 著者名: 誌名, 巻数: 頁数, 西暦年次。(論文題名は自由です)
文献名は正式略称を用いてください。
例: 日泌尿会誌, 臨床皮泌, 皮と泌, 泌尿紀要, 臨泌; J. Urol., Invest. Urol., Zschr. Urol. 等。
B 単行本の場合 著者氏名: 書名, 版数, Vol. 数, p. 数, 発行所, 出版地, 年次。
8. 校正は初校のみ著者にもお願いし、再校以降は編集部のみがおこないます。著者複数の場合、校正責任者をお示しください。
9. 原稿は返却いたします。
10. 原稿到達日を受付日とし、予約による受付はいたしません。
11. 原稿送り先は、〒606 京都市左京区聖護院 京大病院 泌尿器科紀要編集部、書留便。

泌尿器科紀要 第26巻 第10号 1980年10月25日 印刷 1980年10月31日 発行
創刊 稲 田 務 顧問 加 藤 篤 二 定価 500 円(送料別)

発行 吉 田 修 発行所 泌尿器科紀要編集部

〒606 京都市左京区聖護院川原町54 京都大学医学部泌尿器科学教室内 電話(075)751-3327(直通)
印刷所 山代印刷株式会社 京都市上京区寺之内通小川西入